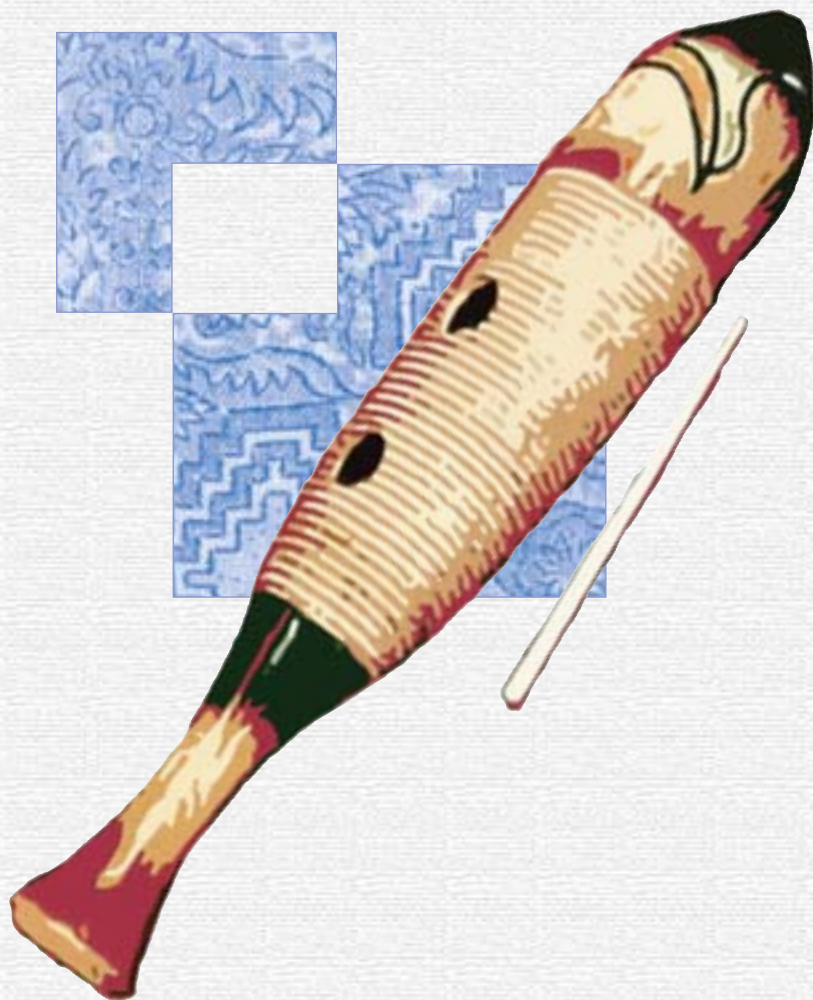


THE RECORD

2005.06 No.547

■ 音楽環境の変化を見る
2004年度 音楽メディアユーザー実態調査

■ 平成17年度事業計画



社団法人 日本レコード協会

RIA
Recording Industry Association of Japan

偉人たちの名言

How sweet the moonlight sleeps upon this bank!
Here will we sit and let the sound of music creep in our ears.
Soft stillness and the night become the touches of
sweet harmony.

(花堤に眠る月光の美しき。
忍び寄る音楽の調べを座し聞かん。
そのハーモニーは快く、夜のしじまこそふさわしけれ。)

— William Shakespeare (1564-1616) “*The Merchant of Venice*”
(ウィリアム・シェークスピア「ヴェニスの商人 5幕1場」より)
<イギリス・劇作家>

世界で最も有名な劇作家の一人、ウィリアム・シェークスピアの喜劇「ヴェニスの商人」の一節です。シェークスピアは、豊かな感性と才能で微妙な心理描写を付け加え、人間の喜怒哀楽を、会話のなかで妙味とともに巧みに描いた深みある作品を数多く残しています。

「ヴェニスの商人」のなかでは、ハラハラするシーンに盛り上がった観客の高ぶった気持ちを和らげ、劇を穏やかなムードに収めるため、音楽をテーマとする場を一つ加えたといわれています。

シェークスピアの時代の演劇は、現在の演劇とは随分雰囲気が違うことをご存じですか。その特長は、「女優がいなかったため、女役も男優が演じていた」「小道具の類が無かったため、演技力だけで雰囲気を出した」「現在のような額縁舞台ではなく、周囲360度から見られる舞台で演じられていた」ことなどです。中世イギリスの劇を役者と観客がどのように感じていたのか興味をそそられます。

表紙の楽器

ギロ

ヒョウタンを乾燥させ中をくりぬいて、表面に細い溝を彫り、響孔を開けた南米の楽器。細い木の棒や金属線のブラシなどで溝を擦ってリズムを刻む。その起源は定かではないが、コロンプスが発見した島(現在のプエルトリコ)の民族楽器だったものが、植民地化、奴隷制度の中で南米全体に広がったと考えられる。「ギロ」という名前は現地語がそのまま伝わったものだ。日本にも獅子舞などで用いられる「すりざさら」というギロに似た楽器が伝わっている。

Contents

Special Feature

音楽環境の変化を見る

2004年度 音楽メディアユーザー実態調査 2

平成17年度事業計画 8

Topics & Information 10

Monthly Production Report 12

今月の数字 13

Gold Album+...認定 14

音楽環境の変化を見る

2004年度 音楽メディアユーザー実態調査

当協会は、(社)日本音楽著作権協会、(社)日本芸能実演家団体協議会・実演家著作隣接権センターと共同で2004年度「音楽メディアユーザー実態調査」を実施、報告書に取りまとめました。この調査は、音楽CD、音楽DVD、着うた等購入者の実態を把握するとともに、その背景にあるユーザーの意識や関連ハード、インターネット利用実態等の環境変化を明らかにすること等を目的として年1回実施しています。

今年度は、若年層の音楽聴取に関する意識、新しい音楽メディアの利用実態を探るとともに、昨年度に引き続き、音楽消費活動における

中高年層マーケットに焦点を当て、中高年層マーケットの掘り起こしの可能性について、分析、考察しました。

なお、より詳細なデータを掲載している報告書の入手をご希望の方は、当協会ホームページ(URL: <http://www.riaj.or.jp/>)からダウンロードいただくか、当協会広報部までお問い合わせください。

本調査は、著作権思想普及を目的とする社団法人私的録音補償金管理協会(sarah)の共通目的基金からの助成を受けて実施しています。

調査設計・サンプル設計

調査設計

調査対象者: 12～69歳男女
(ただし小学生は除く)
調査エリア: 東京30km圏
抽出方法: エリアサンプリング法
調査方法: 質問紙による
面接留置き自記入式
調査日時: 2004年10月1日(金)～
10月20日(水)

サンプル設計

(サンプル)	計	男性	女性
中学生	150	75	75
高校生	150	75	75
大学生	150	75	75
20代	150	75	75
30代	150	75	75
40代	150	75	75
50代	150	75	75
60代	150	75	75
合計	1,200	600	600

2003年度から50代以上の中高年層のサンプルを増加。
(166⇒450)

*20代は学生を含まず。

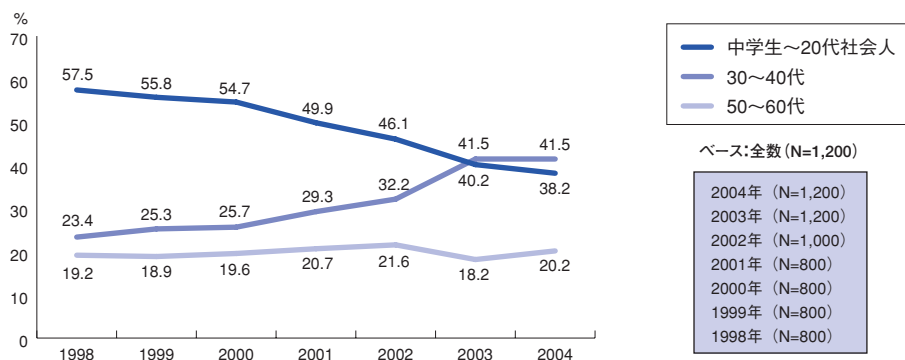
●ウェイトバック集計について

実際の人口構成は年代によってバラつきがあるため人口構成比に合わせるために係数をかける、「ウェイトバック」と呼ばれる統計手法を用いる。



最大シェアは30～40代、中高年層は安定的

■新・年代別推定マーケットシェアの推移



◆CDのマーケットシェア全体で見ると、30～40代のマーケットシェアが高く、10～20代の若年層とほぼ同程度のシェアを占めている。

◆50～60代の中高年層のシェアは2割の安定した数字を維持している。

●推定マーケットシェアの算出方法

性・年代別のアルバム・シングル年間平均購入枚数(中古盤・輸入盤・インディーズ盤などを含む)をそれぞれ、＜アルバム1枚＝3ポイント、シングル1枚＝1ポイント＞と指数化した上で総計を出し、そこから各性・年代それぞれの全体に対する比率を算出した。

ただし1998年～2002年は調査サンプル構成が異なるため、2004年数値をもとに係数をかけて算出した値であることにご留意ください。

◆各種エンタテインメント消費の消費額を比較すると、前年度同様、携帯電話での通話・メールの利用料が大きな位置を占めていることがわかる。1998年以降、急速に普及した携帯電話・インターネットなどの通信費が家計や可処分所得に与えている影響は多大であると推測される。

◆音楽関連支出*の合計は14,997円(前年度20,931円)であり、エンタテインメント関連支出全体の約26%(前年度30%)を占める。

※CD・カセット等購入、コンサート・演奏会等、音楽教室・音楽サークル活動、カラオケ、録音用メディア(生CD-R等)購入、音楽ビデオ購入、CD・カセット等レンタル、有料音楽放送、音楽専門書籍・雑誌購入、有料音楽配信(携帯)、アーティスト関連グッズ、音楽ビデオレンタル、有料音楽配信(PC)

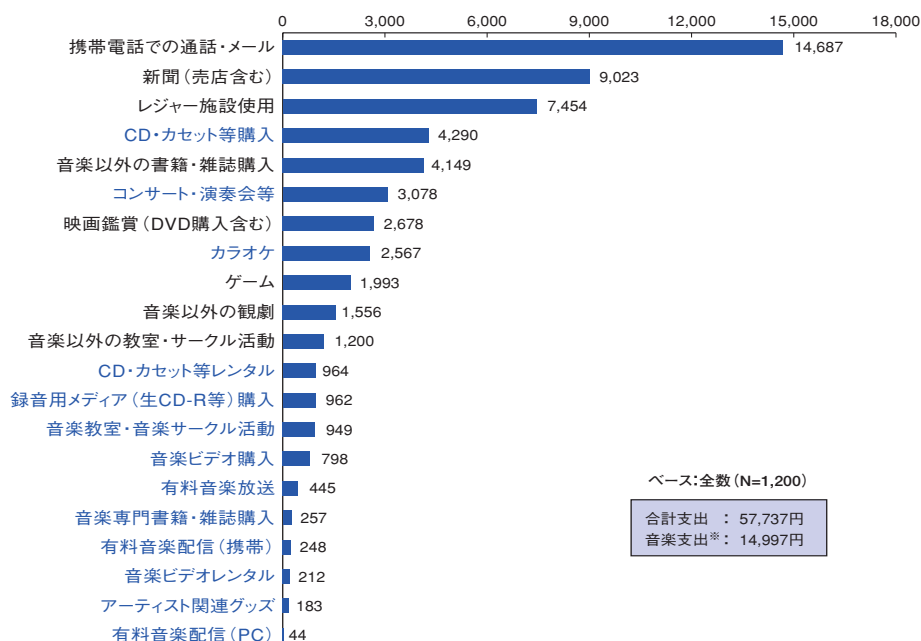
◆50%以上が品揃え(商品種類)が豊富、自宅の近くにあることがCD店選びで重要であると回答している。

◆CD店の店員の接客態度が良いことがCD店選びで重要であると回答する人の割合も高く、27.2%である。

ANALYSIS 2

エンタテインメント支出の競合は携帯電話。しかし音楽関連支出合計では携帯電話に匹敵

過去半年間にエンタテインメント消費に支出した費用合計額(円)

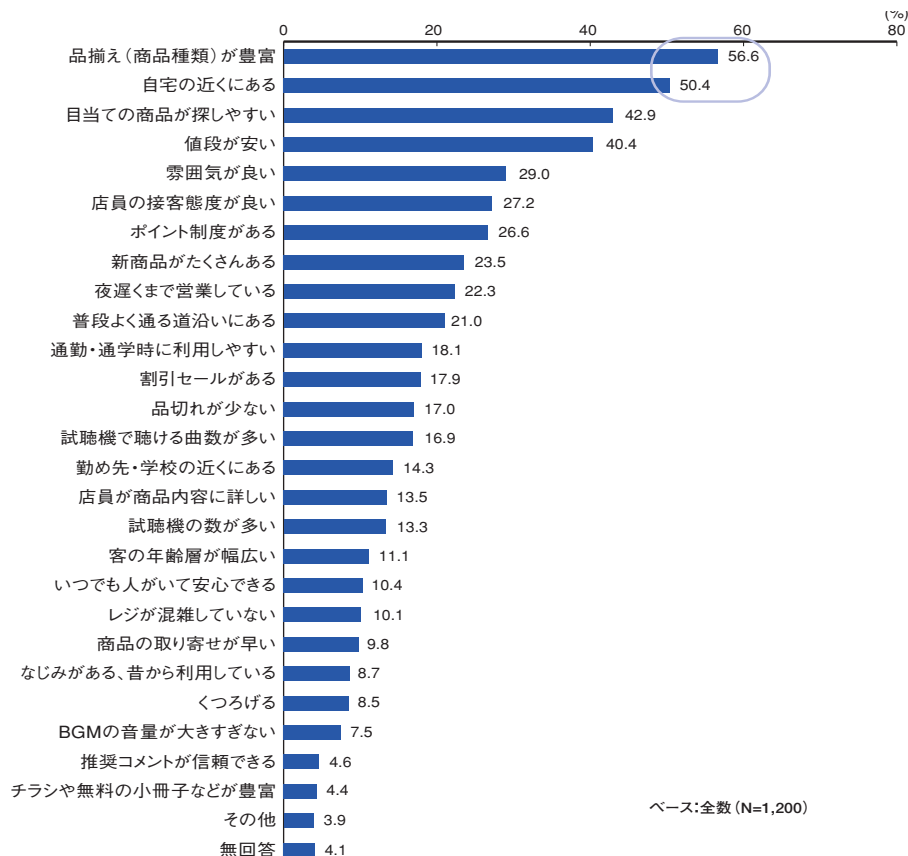


ANALYSIS 3

品揃え(商品種類)が豊富であることを求めている割合が56.6%

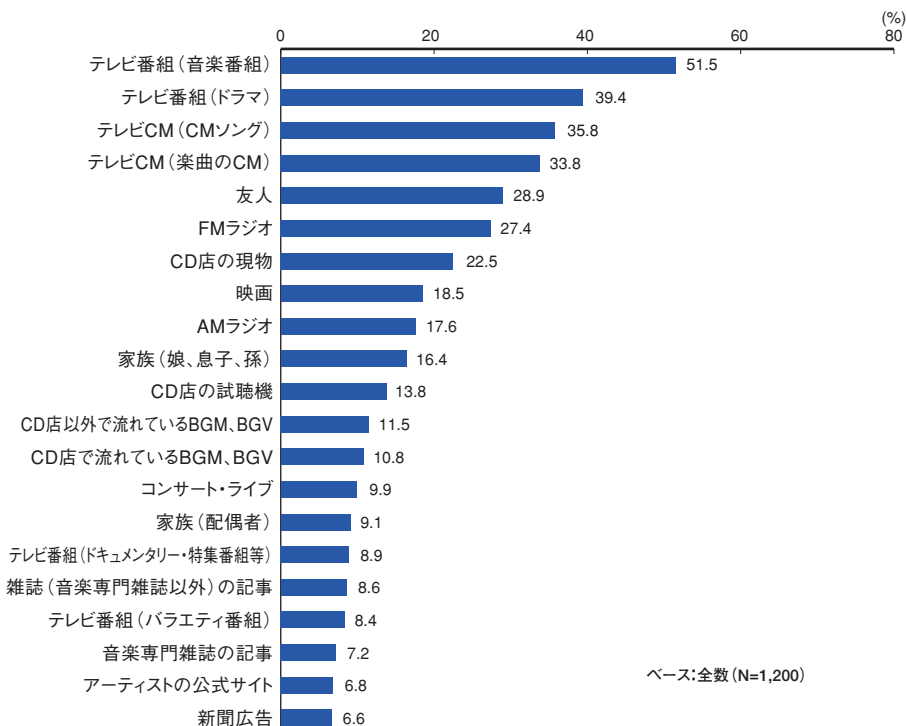
CD購入店の選択基準

Q. あなたがCDを売っているお店を選ぶ際に、重要だと思う項目を選んで下さい。(いくつでも可)



CD購入のきっかけとなる物・事

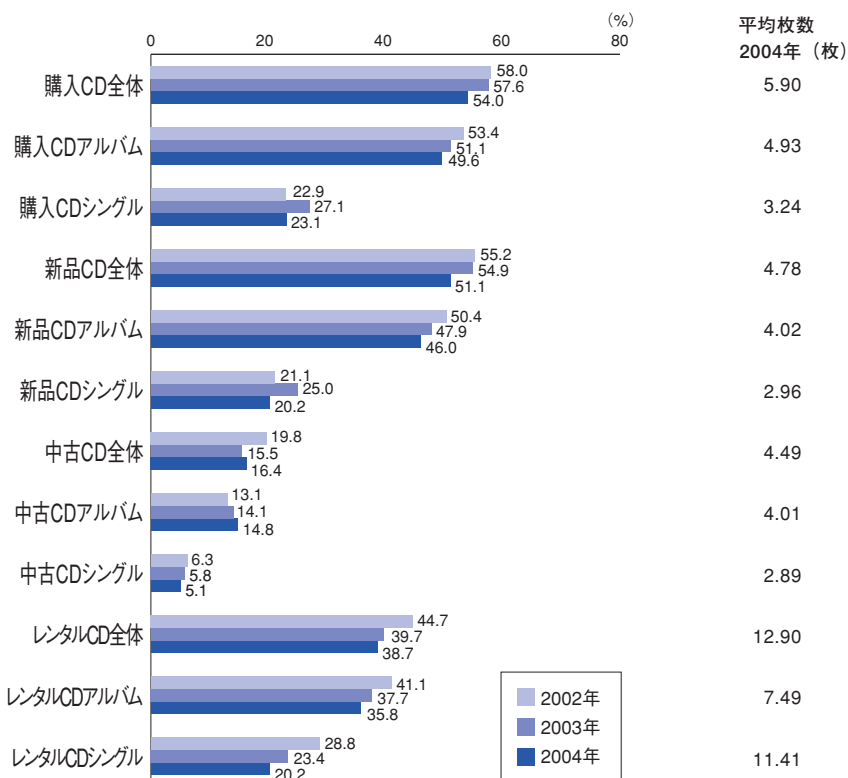
Q. あなたがCDを買うとき、「きっかけになる物・事」は何ですか。
音楽に関する情報源として、あてはまるものをお答え下さい。(いくつでも可)



◆テレビ番組・CMが購入のきっかけになる割合が高い。特にテレビ番組(音楽番組)が購入のきっかけになると回答している人の割合は51.5%存在する。

◆テレビについて、友人がCD購入のきっかけになる人の割合は28.9%と高い。

過去半年間におけるCDの購入率／利用率



◆同じサンプル構成(12~55歳)でCD購入率・平均購入枚数を算出し、過去3年間の経緯を比較した。

◆過去半年間におけるCD全体の購入率は微減している。中古CD市場は横ばい傾向を示している。

◆アルバム・シングルともに、CDレンタル率も減少傾向にある。

●購入率と利用率は全数ベース。購入枚数・利用枚数(平均)の母数は各購入者・利用者当たり。

◆DVD再生機器全般の保有率は急速に高まっている。

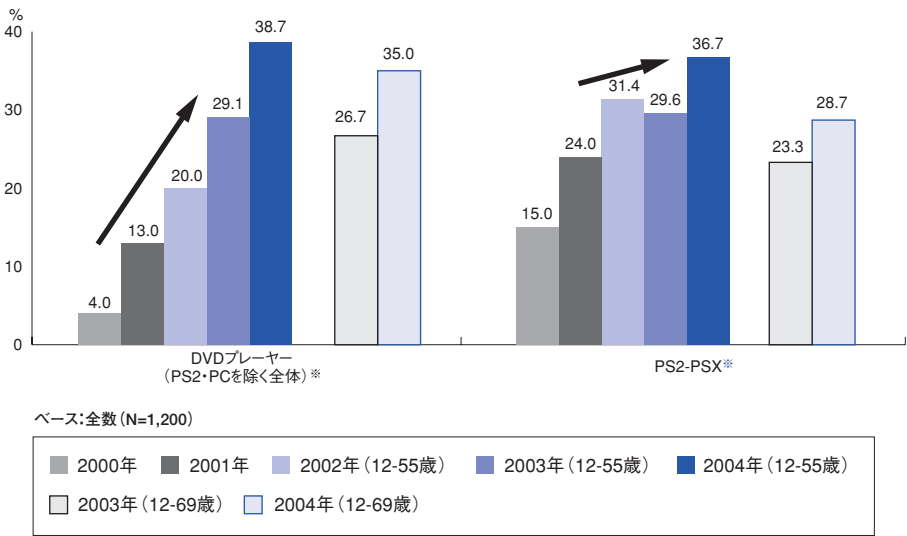
※2004年より、PSXの保有率も追加
※再生専用DVDプレーヤー+DVDレコーダー+HDD録画機能付きDVDレコーダー+コンボ型ステレオ（DVD付き）+カーナビ+その他のいずれかを保有している割合

◆音楽DVDの購入経験率を見ると、男女ともに高校生～20代社会人の音楽DVD購入経験率が高い。30～40代層がそれに続く。

◆今後の音楽DVD購入意向は、映画やその他ソフトと比較して女性の購入意向が高いことが特徴的である。

ANALYSIS 6 パソコン・ゲーム機を除くDVD専用機器の保有率は依然上昇中

DVD再生機器およびプレイステーション2・X保有率の推移



ANALYSIS 7 音楽DVDは高校生～40代中心、特に女性で高い今後の購入意向

音楽DVDの購入経験・今後購入意向

		(%)		
		音楽DVD過去半年間購入率	音楽DVD購入経験率	今後音楽DVDを購入したい
ベース		DVD機器保有者	DVD機器保有者	全数
母数		791	791	1,200
総数		19.3	31.0	46.7
男性計		20.9	29.2	43.0
女性計		17.7	33.0	50.4
男性	中学生	15.2	18.3	31.7
	高校生	31.1	39.6	49.3
	大学・専門学校生	24.1	35.5	45.5
	20代社会人	19.4	44.5	47.6
	30代	18.4	20.4	47.9
	40代	23.4	35.1	47.0
	50代	20.2	17.4	44.2
女性	60代	18.8	28.7	29.3
	中学生	17.3	17.3	61.0
	高校生	23.2	33.2	71.8
	大学・専門学校生	31.1	44.5	51.0
	20代社会人	28.6	41.2	57.3
	30代	15.9	35.8	50.3
	40代	5.8	29.3	46.6
	50代	12.1	23.9	37.3
	60代	20.3	28.6	55.7

ベース: 全数 (N=1,200)

■ 全体平均 (%) よりも5ポイント以上高い箇所

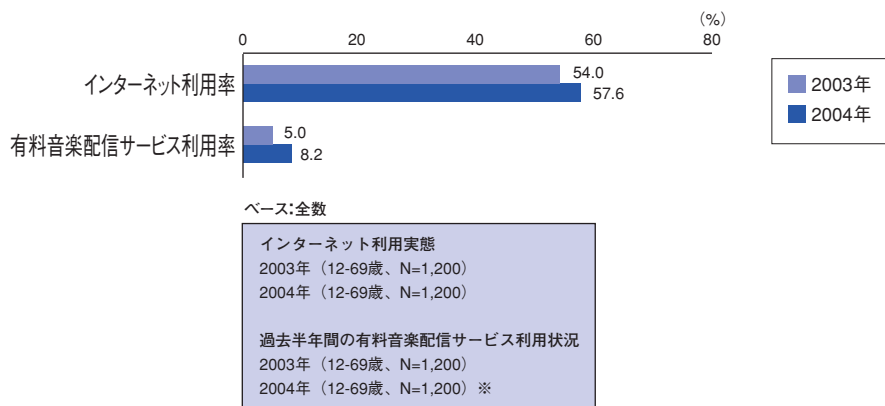


インターネットの利用経験は過去5年間増加 有料音楽配信サービスの利用率は1.6倍増加

■ インターネット利用実態／過去半年間の有料音楽配信サービス利用状況

Q1. あなたは「インターネット」を利用していますか。(○は1つ)

Q2. この半年間に「インターネットによる有料音楽配信サービス」を利用しましたか。(○は1つ)



◆インターネット利用経験は過去5年間で増加を続けており、2004年度は57.6%である。

◆40代女性のインターネット利用経験が増加している。

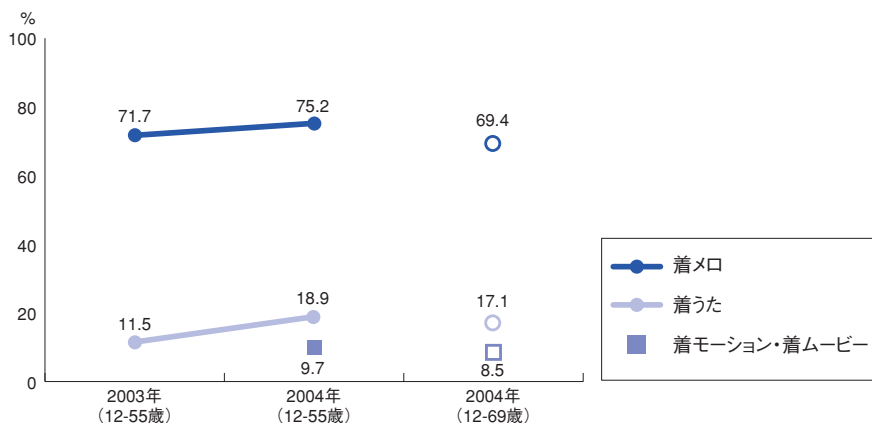
◆有料音楽配信サービスの利用率は、2003年度の5.0%から8.2%と1.6倍に増加している。

※2004年度の調査はインターネットによる有料音楽配信サービスを「知っている」「何となく聞いたことがある」と回答した人の割合と、過去半年間の有料音楽配信サービスの利用において「利用した」「この半年間には利用していない」と回答した人の割合から算出



着メロは40代までの幅広い世代が50%以上経験 着うたは中高校生がリード

■ 着メロ・着うた・着モーション（ムービー）を「よく利用している」「たまに利用している」と回答した利用者割合



ベース:着メロ・着うた利用可能な携帯電話・PHS所有者

2003年 (12-55歳、N=759)
2004年 (12-55歳、N=788)
2004年 (12-69歳、N=867)

◆着メロ利用率は男女ともに増加傾向にある。

◆特に学生の着メロ・着うた・着モーション（ムービー）利用率が高い。

◆一方、30代以降の着うた利用率は20%以下であり、今後の利用増加が期待される。

●2003年の携帯電話・PHS所有者は「iモード」などが利用可能な携帯電話・PHSを所有している」と回答した人である。

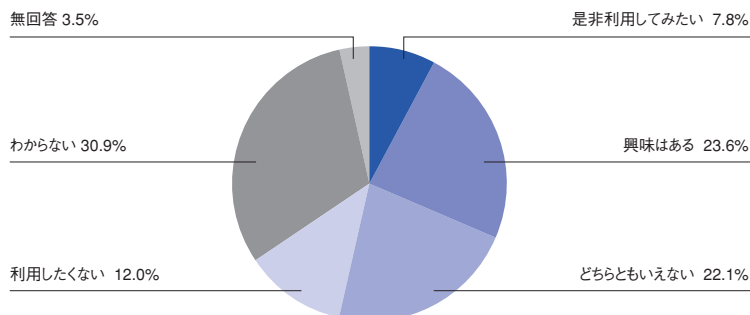
ANALYSIS 10 デジタル携帯オーディオプレーヤー利用意向が高いのは高校生～20代

■ デジタル携帯オーディオプレーヤー未利用経験者の今後の利用意向

Q. あなたはデジタル携帯オーディオプレーヤー（ハードディスク型<iPod>など・メモリ型）を利用したいと思いますか。（○は1つ）

ベース：デジタル携帯オーディオプレーヤー利用未経験者（N=1,117）

全年代



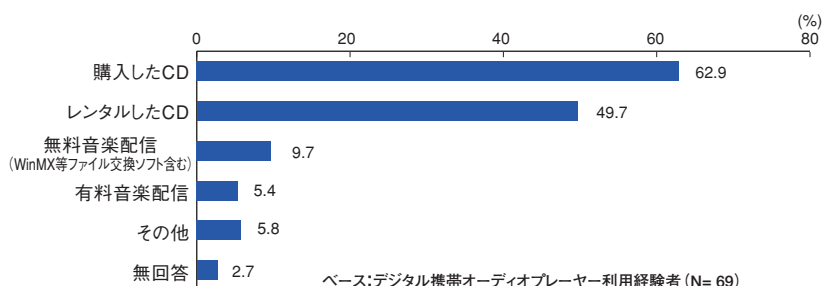
性年代別

		(%)					
		是非利用してみたい	興味はある	どちらとも言えない	利用したくない	わからない	無回答
総数		7.8	23.6	22.1	12.0	30.9	3.5
男性計		8.5	25.6	24.7	10.4	27.1	3.6
女性計		7.2	21.7	19.6	13.5	34.5	3.5
男性	中学生	9.2	26.7	29.5	9.2	24.4	1.4
	高校生	18.9	28.1	26.5	4.6	20.4	1.5
	大学・専門学校生	27.0	30.3	15.7	4.5	21.0	1.9
	20代社会人	17.3	27.4	19.0	4.6	30.2	1.7
	30代	4.4	41.1	29.5	7.6	17.5	0.0
	40代	11.9	20.7	26.1	8.4	28.8	4.2
	50代	0.0	25.1	21.0	18.1	28.5	7.4
女性	60代	5.0	10.8	27.8	14.3	36.7	5.4
	中学生	14.8	16.2	20.0	4.3	40.5	4.3
	高校生	18.5	24.1	21.0	7.2	25.1	4.1
	大学・専門学校生	22.5	46.4	10.4	3.1	14.9	2.4
	20代社会人	6.3	30.8	33.9	7.2	20.1	1.8
	30代	10.8	22.3	23.6	10.1	29.6	3.7
	40代	2.9	23.1	22.0	8.6	40.5	2.9
	50代	5.4	16.5	15.2	20.6	38.2	4.1
	60代	0.0	12.3	11.9	25.1	46.7	4.0

全体平均 (%) よりも5ポイント以上高い箇所

ANALYSIS 11 デジタル携帯オーディオプレーヤーの録音ソースはCDが大半

■ デジタル携帯オーディオプレーヤーで聴く音楽の録音ソース <参考値>



◆2004年10月時点でデジタル携帯オーディオプレーヤーを利用したことがない人のうち、3割は利用に対して積極的な興味・関心を持っている。特に、20代以下の若年層で利用意向が高い。

◆今年度調査（2004年10月時点）でデジタル携帯オーディオプレーヤーを利用したことのある人の録音ソースは、購入したCDが63%と最多である一方、レンタルCDを録音ソースとする人も50%と半数にのぼっている。

平成17年度事業計画

当協会の平成17年度事業計画をご紹介します。

平成17年度事業計画立案にあたっては“時代に即した日本レコード協会の使命、役割”を再度検討し、「レコード産業団体としての事業」「著作権隣接権管理団体としての事業」ならびにそれらの事業を遂行するための「協会運営基盤の整備」という3点から選択と集中による事業の見直しを進め事業計画を策定する。

まず、レコード産業団体事業における具体的な施策としては「需要創造による産業振興策」と併せ「違法ファイル交換、違法コピー対策」、「私的録音補償金制度の見直し」および「アジア地域へのライセンス拡大の支援」を重点施策とする。

次に著作権隣接権管理団体事業においては、「放送二次使用料実績分配に向けた環境整備」、「貸レコードルールの見直し」および「送信可能化権集中管理事業の開始」に注力する。

さらに協会運営基盤を整備する施策として、「レコード産業理解を促進するための情報発信の強化」や「公益法人制度改革を踏まえた協会の使命、役割の確認と業務の総点検」に重点を置いて事業を推進する。

事業活動

[1] レコードの普及に関すること

1. 需要創造支援
日本ゴールドディスク大賞、音楽DVDキャンペーン等を通じ、音楽需要の創造を支援する。
2. 複製制御技術導入および次世代メディア導入の推進支援
セキュアな環境で音楽の複製を可能とする次世代複製制御CDのルール作りを推進し、次世代メディアの導入を支援する。
3. オンラインミュージック市場の環境整備支援
ブロードバンド、モバイルネットワークを利用した音楽流通の環境整備を支援する。
4. ゴールド、プラチナ、ミリオン作品の認定と表彰
5. “ミュージックギフトカード”普及への協力
6. 音楽情報データの整備
 - ① “Music J-CIS” (Music Japan Copyright Information Service) の構成団体として、音楽権利情報データベースを充実させユーザーへのサービスを拡大する。

- ② 映像音楽ソフトのデータベース構築
音楽用DVDビデオの市場拡大に備えて音楽映像商品の権利情報も包含したデータベースの構築を目指す。

7. アジア地域へのライセンス促進支援および音楽文化交流の拡大
昨年の著作権法の一部改正（「音楽レコードの還流防止措置」の導入）を受けて、アジア地域への日本音楽のライセンス拡大を図るための環境整備に積極的に取り組む。
8. レコード産業理解促進のための情報発信
機関誌、ホームページ、プレスリリース、ポスター、パンフレット等を活用して情報発信を強化し、レコード産業の理解促進と産業全体のイメージ向上を図る。

[2] レコードに関する調査研究および統計に関すること

1. 各種業界統計の作成と発表
パッケージ商品の生産・正味出荷実績等の産業統計データの的確な集計・分析と迅速な公表を図る。また、音楽配信、モバイル配信等の統計データ集計システムを構築する。

2. 音楽に関する消費者実態調査の実施

[3] 録音による芸術文化の保存に関すること

1. 文化庁芸術祭への協力
2. 日本プロ音楽録音賞の共催

[4] 著作権・著作権隣接権等に関すること

1. レコード製作者の権利を強化するための活動の推進
 - ① 私的録音補償金制度の見直し
適正な私的録音補償金額を目指し、私的録音補償金の算出方式を定額制とするよう求めていくとともに、ハードディスク内蔵型録音機器等の政令指定化や汎用機器・記録媒体を私的録音補償金の対象とするための法改正要望等、録音実態にあった私的録音補償金制度への移行を図る。
 - ② レコード保護期間の延長
EU等諸外国におけるレコードの保護期間延長の動きを注視しながら、レコードの保護期間を発行後「50年」

から「70年」に延長するために必要な諸活動を行う。

2. レコード製作者の権利を擁護するための活動の推進

- ①違法な音楽ファイルを大量に、継続して公開する違法行為者に対し法的措置を講ずるとともに、技術的対抗手段の検討を行う。
- ②不正コピー、不正アップロード防止に向けた教育・啓発活動の継続と社会一般への認知、理解を得るためのキャンペーンを実施する。また、違法行為者に対する法的措置も広く告知し、違法行為の抑止に繋げる。

3. 海外の団体、機関との連携活動

IFPI (国際レコード産業連盟)、RIAA (アメリカレコード協会) 等、海外のレコード産業団体との連携および情報交換を積極的に推進する。

[5] レコードに関する出版物の刊行等

1. 出版物の刊行

2. 協会ホームページの運営

[6] レコード製作者に係る商業用レコードの二次使用料に関する権利行使の受任、総額の取り決めならびに徴収および分配

1. 二次使用料分配規程の見直し

フィンガープリント等放送実績分配に必要なデータを整備するとともに、放送実績分配導入のため二次使用料分配規程の見直しを行う。

2. 送信可能化権の集中管理事業への取り組み

放送番組の二次的な利用を促進するため、会員各社および関係団体と調整を行い、年度内に送信可能化権集中管理事業を開始する。

[7] レコード製作者に係る商業用レコードの公衆への貸与に係る報酬等に関する権利行使の受任、金額の取り決めならびに徴収および分配

今年度も引き続き全国6大都市に21名の調査室長を配置し、レコードレンタル店でのレンタルルール遵守状況等の把握に努める。また、国内外の環境の変化を踏まえレンタルルールの見直しを進める。

[8] 私的録音録画補償金に関する権利行使団体の構成員としての業務ならびにレコード製作者に係る当該補償金の分配

社団法人私的録音補償金管理協会 (sarah) および社団法人私的録画補償金管理協会 (SARVH) の構成団体として、私的録音録画補償金制度の円滑な運用を推進する。

[9] その他

1. 再販制度の弾力運用の推進

再販制度は、良質で幅広い音楽を提供できる流通環境の確保に重要な役割を担っており、今後もこの制度を擁護していくとともに、一方で当制度の弾力的な運用とより円滑な流通基盤整備の推進に取り組んでいく。

2. レコード倫理審査会の開催

3. 業界規格 (RIS) の制定と改正

4. “ISRC” (International Standard Recording Code) の管理機関としての活動

5. 協会運営基盤整備

①協会業務の点検

公益法人制度改革を踏まえた協会業務の見直しと著作隣接権管理団体としての業務の総点検を行う。

②人材の育成・強化

運営体制

- ・ 総会
- ・ 理事会
- ・ 執行委員会
- ・ 法制委員会
- ・ 情報・技術委員会
- ・ 広報委員会
- ・ マーケティング委員会
- ・ 二次使用料委員会
- ・ レンタルレコード委員会
- ・ アジア音楽市場拡大委員会
- ・ レコード倫理審査会

本年度の事業遂行のため、関係諸官庁ならびに関係諸団体と常に連絡協調を保持しつつ業務を推進する。

以上

Topics & Information

「ほんと?ホント!フェア in 仙台」開催



イベントの様子

開催されました。

ACAは、知的財産の保護と不正商品の排除を目的として1986年に設立されました。今年で20回目を迎える「ほんと?ホント!フェア」は、一般の方々に偽ブランド品、コピー商品、海賊版といった不正商品について意識を高めてもらう目的で毎年開催されています。

今年は、警察庁生活安全局生活環境課の越智知的財産権保護対策官やタレントの桜井裕美さんによるトークショー、手品ショー、音楽ショー、ほんもの・ニセモノクイズなどのイベントのほかにも、会場内の展示物をヒントに回答してもらうペーパークイズ&アンケートが行われ、来場者は楽しみながら偽ブランドと本物の見分け方や知的財産権について学びました。



5月21～22日、不正商品対策協議会(ACA)主催の平成17年度不正商品防止キャンペーン「ほんと?ホント!フェアin仙台」が仙台駅イベントスペースにおいて

早稲田大学寄付講座で佐藤会長が講義

現在、早稲田大学において、当協会による平成17年度寄付講座「コンテンツ・ビジネスと著作権」が開講されています。この講座は、日本の知的財産推進計画の中で、重要な役割を担うコンテンツ・ビジネスの実務を中心とした講義を通じ、著作権の重要性を理解してもらうことを目的としています。

5月19日の授業では、当協会佐藤修会長が教壇に立ち、「音楽ビジネス概論」をテーマに、音楽ビジネスの歴史やレコード産業の役割、音楽ソフトと音楽関連産業等について講義を行いました。

本講座は、音楽業界を中心とした各分野の実務者が講義を行うことから学生の関心も高く、全学部全学年の



講義の様子

400名以上の学生が履修しています。佐藤会長自身の長年の経験談もありまぜた講義に学生は熱心に耳を傾け、その後活発な質疑応答が行われました。

「Respect Our Music」キャンペーン 4アーティストのポスターが4連貼りで駅に登場

当協会は、2002年度から開始した著作権啓発のための「Respect Our Music」キャンペーンを今年度も継続して展開して参ります。

2005年度の皮切りとして、今回、2004年冬から2005年春にかけて実施した、奥田民生さん、華原朋美さん、コブクロさん、m-floさんの4アーティストのご協力による展開の集大成として、首都圏JR、東京メトロの主要各駅で、これまでの4種類のビジュアルを用いたB1ポスターの4連貼り展開を実施します。

実施時期と対象駅は、6月10日(金)から16日(木)にかけて、首都圏JR主要5駅(東京、渋谷、新宿、池袋、横浜)、東京メトロ主要20駅(渋谷、表参道、外苑前、赤坂見附、新橋、銀座、日本橋、三越前、日比谷、恵比寿、六本

木、茅場町、秋葉原、新宿、新宿三丁目、四ツ谷、大手町、池袋、高田馬場、飯田橋)です。また、あわせて会員社、関係団体等のご協力のもと、新聞、雑誌、インターネット等で幅広いパブリシティー展開を実施する予定です。

市販音楽CD等から作成したファイルが無許諾でインターネット上でファイル交換する行為の違法性の社会的認知は高まりつつありますが、今年度も、当協会は、コンテンツ制作の大切さをご理解いただくために、著作権の啓発のキャンペーンを引き続き実施して参ります。

IFPI各種会議にRIAJ参加

当協会は、IFPI(国際レコード産業連盟)の日本支部としてその活動に積極的に参画していますが、今月行われた以下の会議に参加しました。

[中央理事会]

5月19日、フランスのパリで開催された中央理事会に当協会の田辺専務理事が参加しました。この会議は、世界のレコード産業の活動方針を決める重要なもので、違法対策活動、公表データの国際標準化、レコード製作者の権利基盤拡充等、共通の課題への取り組みについて審議と意見交換が行われたほか、これらの活動のベースとなる財政関連の審議も行われました。

[広報会議]

5月10日にイギリスのロンドンで行われた広報会議には当協会広報部の今村部長が参加しました。ハブキャップ活動公表後のメディア等の反応、啓発活動の状況と今後の展開、IFPI本部と各国支部間での情報共有化等について、IFPI事務局と各国からの報告が行われ、世界的な広報活動への取り組みについて意見交換が行われました。

[世界演奏権委員会]

5月23～24日、ノルウェーのオスロで開催された国際演奏権委員会には当協会の高杉事務局長と法務部の畑課長が参加しました。各国におけるレコード製作者等の権利の集中管理、国境のない音楽流通の時代における権利管理、サイマルキャスト等のライセンシング、各国(地域)の法制度面に関する動き等について、現状報告、今後の取り組みについての意見交換等が行われました。

レコ倫学識経験者委員に小西良太郎氏

当協会が毎月開催されているレコード倫理審査会に、新しい学識経験者委員として音楽評論家の小西良太郎氏が参加されることとなりました。

これにより、清水英夫氏(青山学院大学名誉教授・弁護士)、西尾秀和氏(映倫「青少年映画審議会」委員・元講談社)、家田荘子氏(作家)に加えて計4名の学識経験者委員の構成となります。



小西良太郎

1936年東京・堀切生まれ。茨城県に疎開。県立水海道一高卒。

58年スポーツニッポン新聞社入社。63年に音楽担当記者となり、後に文化部長、運動部長、取締役編集局長、常務取締役を務める。00年退社し、フリーの音楽プロデューサー、評論家として活動。99年まで7年間日本レコード大賞審査委員長を務め、現在は制定委員。

主なプロデュース作品は、「舟唄」「雨の慕情」(八代亜紀)、「夜桜お七」(坂本冬美)、「傘の中」「北物語」「アカシア挽歌」にアルバム「おんなの絵本」ほかの五木ひろし、永井裕子の全作品がある。著書に「ドキュメント美空ひばり」「星野哲郎・歌書き一代」「美空ひばり“涙の河”を越えて」他があり、東京新聞、中日新聞、ミュージックリポート等連載多数。

理事会・総会開催

5月27日、東京千代田区のキャピトル東急ホテル「みさおルーム」で開催された当協会の通常理事会(第380回)および通常総会(第119回)において、平成16年度事業報告書および決算報告書が審議、承認されました。

● 2005年5月会議メモ

- 5・10 IFPI広報会議(ロンドン)
- 5・10 法制委員会
- 5・11 レコード倫理審査会
マーケティング委員会
- 5・13 広報委員会
情報・技術委員会
- 5・19 IFPI中央理事会(パリ)
- 5・20 執行委員会
- 5・22～23 IFPI世界演奏権委員会
- 5・27 理事会・総会

Monthly Production Report

2005年4月度レコード生産実績

4月度の音楽ソフト（オーディオレコード・音楽ビデオの合計）生産実績は、数量で前年同月比79%の2,189万枚・巻、金額で前年同月比88%の256億となりました。このうち、オーディオレコードは、数量で前年同月比75%の1,916万枚・巻、金額で前年同月比82%の213億となりました。また、音楽ビデオは数量で前年同月比138%の273万枚・巻、金額で前年同月比138%の43億となりました。

● オーディオレコード

（数量：千枚・巻／金額：百万円）

			4月実績						2005年（1月～4月）累計					
			数 量	構成比	前年 同月比	金 額	構成比	前年 同月比	数 量	構成比	前年 同期比	金 額	構成比	前年 同期比
シ ン グ ル	8cmCD	邦	65	0	3%	23	0	12%	425	0	5%	89	0	13%
		洋	50	0	6%	3	0	5%	123	0	10%	8	0	7%
		計	115	1	4%	26	0	10%	548	1	6%	97	0	12%
	12cmCD	邦	5,192	27	86%	4,174	20	98%	18,115	20	85%	13,757	13	87%
		洋	17	0	24%	14	0	24%	180	0	74%	153	0	76%
		計	5,208	27	85%	4,188	20	97%	18,295	21	85%	13,911	13	87%
	小計	邦	5,257	27	62%	4,197	20	94%	18,540	21	64%	13,846	13	84%
		洋	67	0	8%	17	0	14%	303	0	21%	161	0	51%
		計	5,324	28	57%	4,215	20	92%	18,843	21	62%	14,008	13	83%
	12cmCD アルバム	邦	8,230	43	83%	10,235	48	78%	44,374	50	91%	61,735	58	83%
		洋	4,721	25	89%	6,118	29	83%	22,176	25	95%	28,689	27	87%
		計	12,952	68	85%	16,353	77	79%	66,551	75	92%	90,423	84	84%
CD 合計		邦	13,488	70	73%	14,432	68	82%	62,914	71	81%	75,581	71	83%
		洋	4,788	25	78%	6,135	29	81%	22,479	25	91%	28,850	27	87%
		計	18,276	95	74%	20,567	97	82%	85,393	97	83%	104,431	98	84%
アナログ ディスク		邦	29	0	27%	31	0	87%	89	0	18%	116	0	94%
		洋	4	0	73%	5	0	44%	19	0	26%	24	0	20%
		計	33	0	29%	36	0	77%	108	0	19%	140	0	58%
カセット テープ		邦	772	4	84%	636	3	94%	2,678	3	82%	2,213	2	87%
		洋	0	0	36%	0	0	36%	13	0	147%	8	0	141%
		計	772	4	84%	636	3	94%	2,691	3	82%	2,221	2	87%
その他		邦	60	0	969%	35	0	500%	126	0	218%	178	0	150%
		洋	18	0	122%	34	0	115%	68	0	74%	132	0	74%
		計	77	0	372%	68	0	189%	194	0	130%	310	0	104%
合 計		邦	14,348	75	74%	15,135	71	82%	65,808	74	81%	78,088	73	83%
		洋	4,810	25	78%	6,174	29	82%	22,579	26	90%	29,014	27	87%
		計	19,158	100	75%	21,308	100	82%	88,387	100	83%	107,102	100	84%

● 音楽ビデオ

		4月実績						2005年(1月～4月)累計					
		数 量	構成比	前年 同月比	金 額	構成比	前年 同月比	数 量	構成比	前年 同期比	金 額	構成比	前年 同期比
DVD	邦	2,394	88	157%	3,747	88	167%	9,489	85	113%	12,964	82	96%
	洋	270	10	76%	432	10	60%	1,386	12	82%	2,184	14	66%
	計	2,664	98	141%	4,179	98	140%	10,875	97	108%	15,148	96	90%
テープ・LDその他		64	2	77%	102	2	82%	337	3	75%	568	4	67%
合 計	邦	2,458	90	153%	3,848	90	162%	9,825	88	111%	13,527	86	94%
	洋	270	10	73%	433	10	59%	1,387	12	81%	2,189	14	66%
	計	2,729	100	138%	4,281	100	138%	11,212	100	106%	15,716	100	89%

● 音楽ソフト（オーディオ／音楽ビデオ合計）

			4月実績						2005年（1月～4月）累計					
			数 量	構成比	前年 同月比	金 額	構成比	前年 同月比	数 量	構成比	前年 同期比	金 額	構成比	前年 同期比
オーディオ			19,158	88	75%	21,308	83	82%	88,387	89	83%	107,102	87	84%
音楽ビデオ			2,729	12	138%	4,281	17	138%	11,212	11	106%	15,716	13	89%
合 計			21,887	100	79%	25,589	100	88%	99,599	100	85%	122,818	100	85%

● ビデオ（含音楽ビデオ）

			4月実績						2005年（1月～4月）累計					
			数 量	構成比	前年 同月比	金 額	構成比	前年 同月比	数 量	構成比	前年 同期比	金 額	構成比	前年 同期比
DVD			8,995	97	87%	13,436	94	115%	35,718	97	88%	51,659	93	102%
テープ・LDその他			291	3	56%	884	6	45%	1,230	3	50%	4,112	7	45%
合 計			9,286	100	85%	14,320	100	105%	36,947	100	86%	55,771	100	93%

● オーディオ／ビデオ合計

			4月実績						2005年（1月～4月）累計					
			数 量	構成比	前年 同月比	金 額	構成比	前年 同月比	数 量	構成比	前年 同期比	金 額	構成比	前年 同期比
オーディオ			19,158	67	75%	21,308	60	82%	88,387	71	83%	107,102	66	84%
ビデオ			9,286	33	85%	14,320	40	105%	36,947	29	86%	55,771	34	93%
合 計			28,444	100	78%	35,628	100	90%	125,334	100	84%	162,873	100	87%

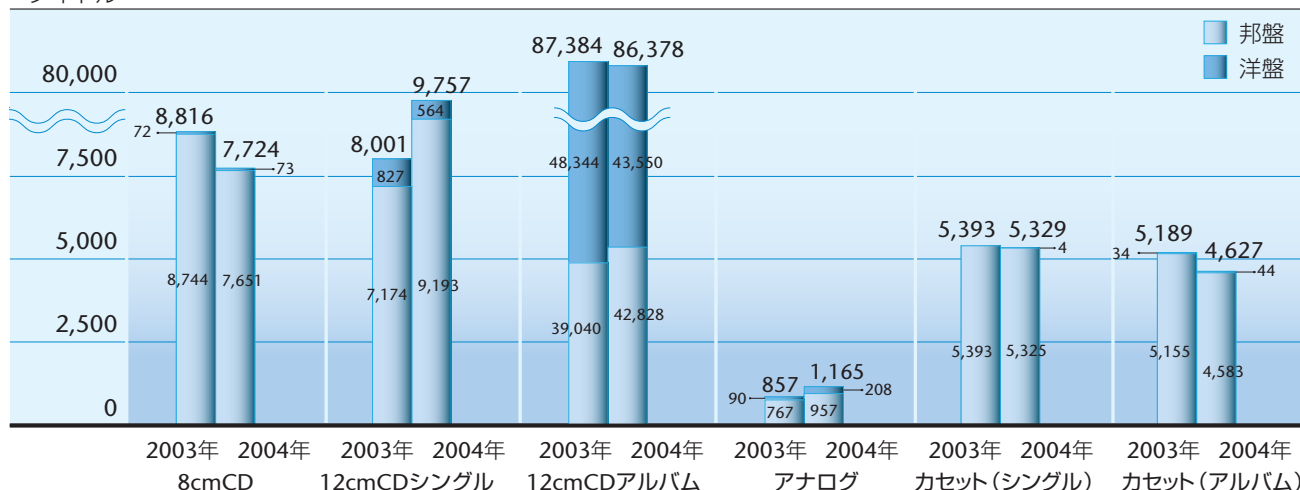
備考 1. 上記実績は、会員会社「42社」の集計である。当会員会社が受託した非会員会社からの販売委託分を含む。
2. 単位未満四捨五入により、内訳と合計が一致しない場合がある。
※オーディオレコードのその他はSACD、DVDオーディオ、DVDミュージック、MDの合計。

レコード種類別カタログ数

2004年末現在における各社総目録に掲載されているレコード（オーディオ／ビデオ）の種類別カタログ数をご紹介します。

● オーディオレコード種類別カタログ数

タイトル



● オーディオレコードジャンル別カタログ数

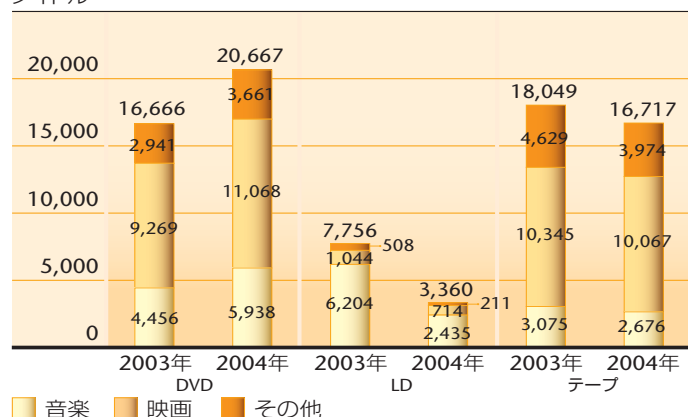
単位：タイトル

ジャンル		8cmCD	12cmCD			MD	アナログ	カセット		合 計
			シングル	アルバム	計			シングル	アルバム	
邦盤	演歌	3,204	1,059	3,170	4,229	0	5	4,522	2,355	14,315
	ポップス・歌謡曲	1,672	2,956	7,546	10,502	2	404	218	159	12,957
	ニューミュージック	1,965	4,223	15,294	19,517	0	539	73	82	22,176
	小計	6,841	8,238	26,010	34,248	2	948	4,813	2,596	49,448
	軽音楽	19	56	2,673	2,729	0	3	21	126	2,898
	民謡・純邦楽	124	36	1,282	1,318	0	0	440	923	2,805
	教育・教材・童謡・童話	94	50	2,369	2,419	0	0	34	353	2,900
	アニメーション	519	703	4,711	5,414	0	2	11	302	6,248
	クラシック	1	16	3,171	3,187	0	2	0	2	3,192
	カラオケ	0	0	31	31	0	0	3	0	34
洋盤	その他	65	97	2,768	2,865	0	2	5	369	3,306
	邦盤計	7,651 (88%)	9,193 (128%)	42,828 (110%)	52,021 (113%)	2 (8%)	957 (125%)	5,325 (99%)	4,583 (89%)	70,539 (106%)
	ロック・ディスコ	36	371	13,608	13,979	0	41	0	1	14,057
	ジャズ・フュージョン	2	16	7,813	7,829	0	150	1	3	7,985
	ポピュラーソング	28	154	4,268	4,422	0	7	0	18	4,475
	映画音楽	1	5	976	981	0	2	0	2	986
	その他	6	12	1,025	1,037	0	1	3	18	1,065
	小計	73	558	27,690	28,248	0	201	4	42	28,568
	クラシック	0	6	15,831	15,837	0	7	0	2	15,846
	その他	0	0	29	29	0	0	0	0	29
	洋盤計	73 (101%)	564 (68%)	43,550 (90%)	44,114 (90%)	0 (0%)	208 (231%)	4 (0%)	44 (129%)	44,443 (90%)
合 計		7,724 (88%)	9,757 (122%)	86,378 (99%)	96,135 (101%)	2 (8%)	1,165 (136%)	5,329 (99%)	4,627 (89%)	114,982 (99%)

() 内は対前年比

● ビデオレコード種類別カタログ数

タイトル



※カタログ数は、当該年末時点のカタログ数。

● ビデオレコードジャンル別カタログ数

単位：タイトル

ジャンル		ディスク		テープ	合 計
		DVD	LD		
音楽	邦楽	2,987	145	2,083	5,215
	洋楽	2,148	304	571	3,023
	カラオケ	803	1,986	22	2,811
映画	邦画	3,028	147	3,493	6,668
	洋画	2,814	188	1,475	4,477
	アニメ	5,226	379	5,099	10,704
その他		3,661	211	3,974	7,846
合 計		20,667 (124%)	3,360 (43%)	16,717 (93%)	40,744 (96%)

() 内は対前年比

Gold Album +... 認定

2005年4月度

4月度ゴールドアルバム等認定では、ポルノグラフィティ「PORNO GRAFFITTI BEST RED'S」がミリオンを、B'z「THE CIRCLE」がダブル・プラチナを達成しました。

■ 邦楽

アルバム

● ミリオン

PORNO GRAFFITTI BEST RED'S	ポルノグラフィティ	2004.07.28	SE
----------------------------	-----------	------------	----

● ダブル・プラチナ

THE CIRCLE	B'z	2005.04.06	BM
------------	-----	------------	----

● プラチナ

Crystal Style (クリスタイル)	Crystal Kay	2005.03.02	ES
夏雲ノイズ	スキマスイッチ	2004.06.23	BMG
touch	NEWS	2005.04.27	JE
THUMP x	ポルノグラフィティ	2005.04.20	SE

● ゴールド

E ~Complete A side Singles~	ZONE	2005.04.13	SR
-----------------------------	------	------------	----

シングル

● ゴールド

君の声	アンダーグラフ	2005.04.20	FL
大阪レイニーブルース	関ジャニ∞ (エイト)	2005.03.02	TE
春の歌ノテクテク	スピッツ	2005.04.20	UM
僕たちの行方	高橋 瞳	2005.04.13	SR
長い夢	YUKI	2005.04.27	ES
I Wanna Go To A Place...	Rie fu	2005.04.27	QQ

ビデオ

● ゴールド

ヴィデヲ・DE・リサイタル	ORANGE RANGE	2005.04.27	SR
お客様は神サマーConsert 55万人愛のリクエストに应运て!!	KAT-TUN	2003.02.26	JE
TSUYOSHI DOMOTO 2nd LIVE [si:] FIRST LINE	堂本 剛	2005.04.06	JE

■ 洋楽

アルバム

● ゴールド

イン・ビトウィーン・ドリームス	ジャック・ジョーンソン	2005.02.16	UM
グエロ	BECK	2005.03.16	UM



PORNO GRAFFITTI BEST RED'S/
ポルノグラフィティ



THE CIRCLE/B'z

※AI:ソニー・ミュージックアソシエイテッドレコーズ/AVT:エイベックス・エンタテインメント/BG:ビーグラムレコーズ/BM:バーミリオンレコード/BMG:BMGファンハウス/C:コロムビアミュージックエンタテインメント/CR:日本クラウン/DF:デフスターレコーズ/DRM:ドリーミュージック/EP:アップフロントワークス(ゼティマレーベル)/ES:EPICレコードジャパン/FL:フォーライフミュージックエンタテイメント/GN:ジェネオン エンタテインメント/GZ:ギザ/JA:ジェイ・ストーム/JE:ジャニーズ・エンタテインメント/JK:ユナイテッド・アジアエンタテインメント/K:キングレコード/KS:キューンレコード/MH:ソニー・ミュージックダイレクト/ON:ビーヴィジョン/PAR:プライエイド・レコーズ/PC:ポニーキャニオン/PK:ピッコロタウン/PY:プラティア・エンタテインメント/PZ:ピザ・オブ・デス・レコーズ/QQ:バームビーチ/RR:ロードランナー・ジャパン/SE:エスエムイーレコーズ/SI:ソニー・ミュージックジャパンインターナショナル/SN:SENHA & CO./SR:ソニー・ミュージックレコーズ/SV:アニプレックス/TE:テイチクエンタテインメント/TF:トイズファクトリー/TJC:徳間ジャパンコミュニケーションズ/TO:東芝EMI/UM:ユニバーサルミュージック/V:ビクターエンタテインメント/WJ:ワーナーミュージック・ジャパン/XL:アンリミテッドグループ/YR:アール・アンド・シー・ジャパン

※ダブル・プラチナ(50万枚)以上の認定を受けた作品のジャケット写真を紹介します。

協会からのお知らせ

Topics & Informationでご紹介したとおり、6月10～16日の間、首都圏JR、東京メトロ主要各駅に、2004年度「Respect Our Music」キャンペーンの4アーティストのポスターが4連貼りで登場します。当協会は、今年度も引き続き著作権啓発キャンペーンを展開して参ります。



編集後記

5月6日から始まった日本プロ野球界初のセ・パ交流戦は、事務所近くの神宮球場でも連日熱戦が繰り広げられています。昨年、球界再編問題は世間を大いに騒がせました。世間の注目が、結果として動きの鈍かった日本球界を動かした訳で、日本球界にとって歴史的な出来事だったと思います。しかし、交流戦は改革の第一歩に過ぎません。今後の日本球界の取り組みに注目しています。(S)

Respect Our Music

THE RECORD No.547 2005年6月号
社団法人 日本レコード協会 機関誌

発行人 佐藤 修
編集人 田辺 攻
発行日 2005年6月10日
発行 社団法人 日本レコード協会
〒107-0061 東京都港区北青山2-12-16 北青山吉川ビル11F
TEL. 03-6406-0510(代) FAX. 03-6406-0520(代)
URL: <http://www.riaj.or.jp/>

制作協力 株式会社エフビーアイ・コミュニケーションズ

R100

古紙配合率100%再生紙を使用しています